



### なぜ水戸黄門は印籠をすぐに見せないのか？

看取りに関わる人材を育てて行くためには、難しい事をなるべくわかりやすく伝える必要があります。そのために、何かに例えて話をすることがしばしばあります。しかし、似ていて異なる話もあるので、例え話の引用は注意が必要です。

援助的コミュニケーションとして、“反復”と“沈黙”は意識をすればある程度行うことはできるでしょう。しかし、“問いかけ”となると、なかなか難しいのではないかと考えています。特に“問いかけ”を使うことを意識すると、会話の比較的早い段階で問いかけてしまいます。すると、“何でそんなことを答えなければいけないの？”と不信感を与えてしまう危険性があるからです。苦しむ人に援助者として関わる上で大切なことは、“苦しんでいる人は、自分の苦しみをわかってくれる人がいると嬉しい”です。ですから、わかってくれる人として認めて頂くために、冒頭はていねいに反復して沈黙する（待つ）ことがとても大切になります。つまり、“問いかけ”を行うためには、最初ではなく、しばらくたって、信頼関係を得てから行う技法であることを周知しておく必要があります。

このテーマを理解するためには、どんな例え話が良いのであろうかと思ったとき、頭に浮かんだのが、“なぜ水戸黄門では、印籠をすぐに出さないのか？”でした。ご存知の水戸黄門では、光圀が悪人の前で、悪行の真相をあかすと、「おのれ、黙って聞いておれば田舎じいじい分際で。構わん、一人残らず斬り捨てい」と襲いかかります。それに対して、光圀はすぐに印籠を出して自己紹介は決してしません。それどころか「助さん、格さん、懲らしめてやりなさい」と大立ち回りとなります。しばらくして、「助さん！格さん！もう良いでしょう」と言うと助さんまたは格さんが「鎮まれ、鎮まれ。この紋所が目に入らぬか」と葵の御紋の印籠を掲げて「こちらにおわす御方をどなたと心得る。畏れ多くもさきの副將軍・水戸光圀公にあらせられるぞ。一同、御老公の御前である、頭が高い、控え居ろう」と一喝し、悪人一味は土下座して平伏します。

普通に考えれば、あんなに大立ち回りをしないで先に印籠を出せば、痛い思いをする人もいなく、平和的で良いのではないかと勝手に考えたりします。しかし、映像的にはチャンバラをみたい人もいるのでしょうか。すぐに印籠を出さないのには、それなりの理由があるのだと思います。同じように？苦しむ人に、反復と問いかけを行わずに、会話の冒頭に“問いかけ”を行うことはNGです。信頼関係が構築しない中で行うことは、かえって関係性を悪くする恐れもあると心得ないといけません。

水戸黄門の印籠と、1対1の対応における“問いかけ”は少し待ってから行うという点で似ていますが、信頼関係を構築する意味においては異なりますね。もっと芸を磨かなければと思いつつ、まだまだと思う毎日です。

小澤竹俊

### 第15回神奈川県緩和医療研究会開催にあたって

超高齢多死時代にむけて、どのような課題があるのか、何を今から準備していく必要があるのか、神奈川で活動されている第1線のエキスパートより、問題提起をしていただき、参加者の皆様と熱く討論をしたいと思えます。事前申し込みが必要です。お誘い合わせの上お越し下さい。

日時：2016年3月26日午後0時30分受付、午後5時終了予定  
場所：関内新井ホール

講演：多職種連携で行うエンドオブライフ・ケア ～2025年問題解決に向けて～；小澤竹俊（めぐみ在宅クリニック 院長）

シンポジウム：多職種連携で2025年問題に備える

小野沢 滋（北里大学病院 トータルサポートセンター センター長）、平野 和恵（南区医師会訪問看護ステーション 緩和ケア認定看護師）、串田 一樹（昭和薬科大学地域連携薬局イノベーション講座特任教授）、MSW：堀越 由紀子（東海大学 健康科学部社会福祉学科教授）、小山 輝幸（特別養護老人ホーム グリーンヒル泉・横浜 介護支援専門員）、佐藤 陽（朝日新聞横浜総局 記者）

定員：300人、参加費：1000円

事前申し込み：めぐみ在宅クリニックまで

### 追想の集いを開催しました

2016年2月13日（土）に、めぐみ在宅クリニックを会場に追想の集いを開催しました。2015年1月から6月までにめぐみ在宅クリニックで関わりなくなったご遺族にお越し頂きました。大切なことは、その人との心と心のつながりを覚えておくこと。先に逝かれた人が、どのようなメッセージを送られているのかを感じる。そのために私たちができることとして、その人の人生を振り返ります。どこで生まれて、何を大切にされてきて、人生でどんな役割をされてきた人であったのか。どんなことに生きがいを感じ、人生で何を学ばれてきたのか…。その人の大切にされてきたこと、重要と思うことを一つ一つ思い出すことで、その人が今の私に天国からどんなメッセージを送るかをしっかりつかむことができれば、支えとなる関係は失いません。残されたご遺族と故人を偲ぶ時間となりました。

### 診療実績

	2006-2014年	2015年 1月～9月	2015年 10月	2015年 11月	2015年 12月	2015年 計	2016 年1月	総計
訪問回数	32,656	6,277	795	783	827	8,682	772	42,110
自宅永眠	1,286	170	24	20	28	242	22	1,550
施設永眠	129	22	4	3	0	29	4	162
在宅(自宅+施設)	1,415	192	28	23	28	271	26	1,712
病院永眠	330	47	7	9	4	67	8	405